

あいち農産物生産流通レポート

2026年7月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ ナシ「瑞月（ブランド名：あいみずき）」の収穫適期を簡単に見極め！ —有袋栽培「瑞月」用カラーチャートを作成—	（農業総合試験場） 1
◎ 地域トピックス	
・ エディブルフラワー用の冷蔵庫・冷凍庫を新設しました	（東三河農林水産事務所） 2
◎ 東京レポート	
・ 東京都中央卸売市場における2025年産の本県産農産物の動向	（東京事務所） 3
・ 大事なのは低温輸送！～しっかり冷やして、品質長持ち！～	（東京事務所） 5
・ ブライダル産業における花きの利用	（東京事務所） 6
◎ 東京都中央卸売市場における7月の主要な愛知産青果物の動向	（東京事務所） 7
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の7月の見通し（県内市場）	（食育消費流通課） 10

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

（052）-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

（03）-5492-5400

ナシ「瑞月（ブランド名：あいみずき）」の収穫適期を簡単に見極め！

—有袋栽培「瑞月」用カラーチャートを作成—

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場と農研機構が共同で開発したナシ品種「瑞月」は、食味が良く、果皮が黄赤褐色の品種であり、ブランド名「あいみずき」としても販売され、本県での栽培が徐々に広がりつつあります。県内では、袋掛けを行う有袋栽培、袋掛けを行わない無袋栽培の両方が行われています。有袋栽培と無袋栽培では収穫期を判断する果皮色が異なっているなか、収穫適期の見極めには、果実の収穫期を果皮色で判断するカラーチャートの活用が有効です。今回、新たに有袋栽培用カラーチャートを開発しました。



「瑞月」の果実

1 有袋栽培「瑞月」用カラーチャートの作成

ナシの熟度は糖度、硬度、果皮色や芳香などで総合的に判断されます。

2024 年度に撮影した有袋栽培「瑞月」の写真を用いて熟度の進み具合を 1 から 4 番の色で区分する、新たなカラーチャートを作成しました（図 1）。2025 年度にこのカラーチャートを用いて試験場で果実品質を調査し、その有用性（カラーチャート値が正しく熟度を反映し、収穫適期の見極めに利用できること）を確認しました（表 1）。

表 1 有袋栽培用 CC（カラーチャート）値による有袋栽培「瑞月」果実品質の違い（収穫盛期）

	地色CC値*		果実重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (pH)	硬度 (lbs)	熟度
CC1	2.5	c ^z	338.9	12.3	5.2	b ^z	a ^z
CC2	3.8	b	343.7	12.8	5.3	ab	ab
CC3	4.0	b	365.8	13.0	5.3	ab	b
CC4	5.0	a	380.1	13.3	5.4	a	b

^z Tukeyにより異なる英小文字間で 5%水準で有意差あり n=10
* 市販されている果実カラーチャート「梨 日本ナシ（地色）」による判定値

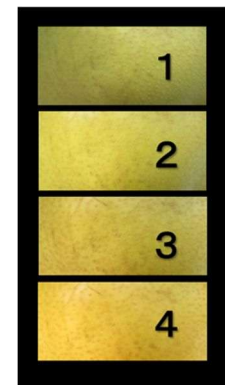


図 1 有袋栽培「瑞月」用カラーチャート

2 生産者へのアンケート調査

作成した有袋栽培「瑞月」用カラーチャートの使用感やカラーチャート値別の食味について、2025 年度に県内ナシ生産者 12 名に対し、アンケート調査を実施しました。収穫した果実について、9 割以上の生産者が、「同じカラーチャート値の果実群内では食味が揃っていた」と回答しました。また、8 割近くの生産者が、「異なるカラーチャート値の果実群間では食味や食感に違いを感じた」と回答しました。

これらの結果から、作成したカラーチャートの有用性が裏付けられました。

カラーチャートの利用によって、より簡単に収穫適期の見極めができるようになります。その結果、有袋栽培の「瑞月」においても適期収穫が促進され、果実品質の向上が見込まれます。

エディブルフラワー用の冷蔵庫・冷凍庫を新設しました

東三河農林水産事務所

豊橋温室園芸農業協同組合（以下、豊橋温室農協）では、昭和 42 年からエディブルフラワー（※）として桜草の栽培をスタートし、次々と新商品を開発することで発展してきました。昭和 63 年頃からはエディブルフラワーブームにいち早く対応し、産地規模が拡大しました。現在、豊橋産のエディブルフラワーは市場シェアの 9 割近くを占め、日本一の産地となっています。

近年は、SNS における“インスタ映え”の流行で、再びブームが到来しており、“料理を引き立たせる最高の脇役”として活用されています。

※食用花のこと。豊橋温室農協では金魚草、トレニア、ペンタス、プリムラ、パンジー等を取り扱っている。



多種多様なエディブルフラワー
(豊橋温室農協 HP より)

1 取組の概要

令和 7 年度に豊橋温室農協は、県のあいち型産地パワーアップ事業を活用して、エディブルフラワーの集荷・流通改善に取り組みました。

事業活用前の荷受け・検品・荷作り梱包等の集荷場面積は 75 m²、冷凍庫は 13.5 m²で、規模が現状の収穫量に十分対応できていませんでした。また、近年の高温化の影響により集荷場が高温となり、品質に影響を与えていました。

これらの課題を解決するため、エディブルフラワーを荷受け・梱包・保管するための冷蔵庫（143 m²）及び冷凍庫（17 m²）を整備しました。

2 期待される効果

商品の荷受け・検品・荷造り梱包作業・保管を冷蔵庫内などの適切な環境で行うことが可能となり、商品の高品質化・出荷調整による販売機会の増加が期待されます。

これらの取組を通じ、豊橋温室農協は組合員の高収益化、産地の維持・拡大、ブランド力強化の実現を目指します。



整備された冷凍庫



整備された冷蔵庫



冷蔵庫内

東京都中央卸売市場における 2025 年産の本県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025 年産（令和 7 年 1 月から同年 12 月まで）の東京都中央卸売市場（9 市場）における本県産農産物の総取扱額は 337 億円（シェア 5.0%）で 47 都道府県の中で第 6 位でした。

なお、本県産農産物の内訳は野菜が 200 億円（前年対比 103.9%）、果実が 18 億円（同 99.4%）、花きが 118 億円（同 95.7%）となりました。

1 野菜の動向

東京都中央卸売市場における野菜の総取扱額は 3,868 億円で、前年並（△1.7%、66 億円減）となりました。本県産の主要な品目の概況は以下のとおりです。

キャベツは、1 月～3 月は低温と干ばつの影響で小玉傾向となり、入荷量は平年を 1 割以上下回る状況が続き、平均単価は 1 月に前年同月比 306%（242 円/kg/円）を記録するなど過去に類を見ない高値が続きました。11 月以降は高温の影響を受けつつも平年並の入荷量と平均単価となり、取扱額は前年をやや上回りました。トマトは、1 月～2 月は前年の夏期高温の影響により入荷量が少なく高値となり、10 月以降は小玉傾向の中で 11 月に入荷量が一時的に減少して高値となり、取扱額は前年をかなり上回りました。ブロッコリーは、1 月～2 月は低温と干ばつの影響により、10 月～11 月上旬は高温の影響による定植遅れにより、いずれも入荷量が少なくなり、これに伴って単価が上昇しました。その他の期間は平年並の数量でしたが、単価上昇の影響により年間の取扱額は前年をかなり上回りました（表 1）。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	2025 年	前年対比	順位（シェア）	上位産地
野菜合計	20,048,208	103.9%	6 位（5.2%）	①茨城、②北海道、③千葉
キャベツ	5,508,059	103.1%	1 位（29.3%）	②群馬、③千葉
おおば	3,519,528	100.2%	1 位（85.3%）	②茨城、③大分
トマト	2,854,201	107.1%	3 位（9.9%）	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,420,622	112.9%	2 位（14.6%）	①熊本、③北海道
ブロッコリー	1,122,619	106.9%	6 位（7.3%）	①北海道、②香川、③熊本

2 果実の動向

東京都中央卸売市場における果実の総取扱額は 2,016 億円で、前年並（△0.1%、2 億円減）となりました。本県産の主要な品目の概況は以下のとおりです。

いちじくは、夏期の高温、干ばつの影響を受けて小玉傾向で推移しました。また、需要期の 8 月から 9 月にかけては、前年を大幅に上回る入荷量があり、取扱額は前年をかなり上回りました。かきは、夏期に高温と乾燥の影響で日焼け果が発生しましたが、カメムシによる吸汁被害が少なく、取扱額は前年をやや上回りました。（表 2）

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	2025 年	前年対比	順位（シェア）	上位産地
果実合計	1,826,769	99.4%	20 位（0.9%）	①栃木、②山梨、③青森
かき類	533,379	103.0%	4 位（7.6%）	①和歌山、②奈良、③福岡
いちじく類	440,880	113.9%	1 位（44.9%）	②和歌山、③新潟
みかん類	427,803	95.2%	7 位（1.3%）	①愛媛、②静岡、③長崎
メロン類	74,092	77.1%	10 位（0.7%）	①茨城、②静岡、③熊本
いちご類	39,647	55.4%	18 位（0.1%）	①栃木、②福岡、③茨城

3 花きの動向

東京都中央卸売市場における花きの総取扱額は848億円で、前年をやや下回り（△4.4%、39億円減）ました。本県産の主要な品目の概況は以下のとおりです。

菊類（輪菊、スプレー菊等）は、酷暑による生育不良の影響で旧盆の需要期に向けた出荷量が減少し、取扱額は前年をかなり下回りました。ばら類は、年間を通じて気温が暖かく少雨であったため、生育は順調に推移しましたが、施設内が乾燥して害虫（ハダニ類、スリップス類等）が発生し、取扱額は前年並となりました。（表3）

小売店では、春秋の物日と夏の猛暑日で需要の山谷が大きく、例年に比べ仕入れを抑える傾向がありました。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	2025 年	前年対比	順位（シェア）*	上位産地*
花き合計	11,828,277	95.7%	1 位（14.0%）	②千葉、③埼玉
切り花計	9,059,831	95.0%	1 位（15.4%）	②千葉、③静岡
菊類	5,895,766	92.7%	1 位（41.8%）	②沖縄、③マレーシア
ばら類	1,015,357	99.8%	1 位（17.2%）	②静岡、③群馬
アルストロメリア	618,077	102.6%	2 位（35.8%）	①長野、③山形
観葉植物	1,353,906	102.6%	1 位（32.9%）	②鹿児島、③沖縄
鉢花	449,987	92.2%	2 位（12.0%）	①埼玉、③千葉
らん鉢	288,672	94.3%	5 位（7.7%）	①千葉、②埼玉、③山梨

*順位及び上位産地は、産地名「その他外国」を除く

大事なのは低温輸送！～しっかり冷やして、品質長持ち！～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

食品産業の発展のため、食品機械・装置および関連機器に関する技術ならびに情報の交流と普及を図る「FOOMA JAPAN2026」（主催：一般社団法人 日本食品機械工業会）が、2026年6月2日(火)～5日(金)に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。取材した5日(金)は、青果物の品質保持に関する講演がありましたので、その概要を紹介します。

講演名：物流環境計測に基づく青果物の品質予測・保証システムの開発動向
(千葉大学グランドフェロー 椎名武夫氏)

1 収穫後の青果物の品質変化

近年、国内外でフードロスが問題となっている。青果物の品質保持技術はフードロス削減のために、必要不可欠である。

青果物は、収穫後も「呼吸^{*1}」しており、栄養成分の減少や食味の低下など品質の劣化が進む。椎名氏は「呼吸を抑制するために最適な環境条件は品目によって異なるものの、「傷つけない、低温にする、高湿度にする、低酸素状態にする」などが挙げられる」ことを説明した。また、「最も大事なものは「温度」。呼吸速度は、温度が高くなるほど大きくなる。このため、低温で輸送する「コールドチェーン」は青果物の品質保持のために最も重要である。」と話した。

また、椎名氏は「従来、青果物の品質を定性的(言葉や感覚など、観察)に評価してきたが、定量的(数字やデータなど)に評価することも大事」とも話した。

※1 空気中の酸素を取り込んで青果物内の糖や有機酸を消費し、エネルギーを生み出す働きのこと。呼吸すると糖などが消費され、栄養価が低下する。

2 輸送環境データに基づいた青果物の品質の推定

椎名氏は、「過去に、輸送中の温度、湿度、酸素濃度などの環境データから、青果物の品質変化を推定できるか検証した。もっと輸送中の環境データを蓄積すれば、売り場に着いた時の青果物の品質を、収穫直後の非破壊評価と流通時の環境データに基づいて推定できる」と話し、「将来的には、輸送中の環境データに基づいて、「このアスパラガスはあと2日以内に食べましょう」といった情報をお客さんに提供することでフードロスを削減できる、また、日持ち日数に応じて、どこのお店に配送するかといった輸送計画の検討に役立てることができる」と、輸送後の青果物の品質推定の活用について説明した。

青果物の品質は、経験や見た目による評価がメインでしたが、今後は、輸送中の環境データ等をもとに購入時の青果物の品質が推定されることで、それに応じた適切な配送先の選定や、消費者への品質保持期間の情報提供が進むことが期待されます。

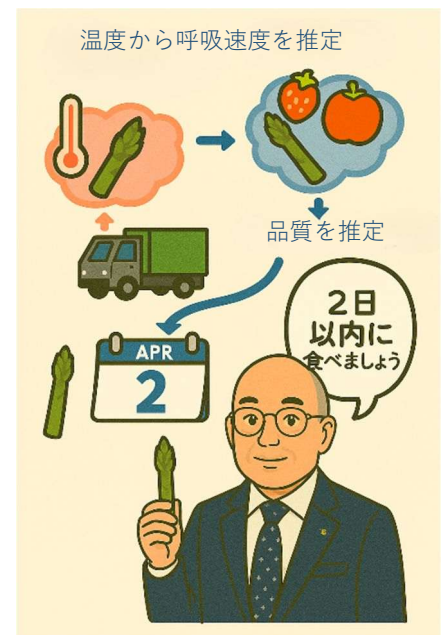


図 青果物における日持ち推定のイメージ

(Created with Copilot)

ブライダル産業における花きの利用

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026年6月9日（火）から10日（水）にかけて、東京ビックサイトで「ブライダル産業フェア 2026」（主催：株式会社ブライダル新聞社）が開催されました。

ブライダル産業の花きに関連する展示ブースを取材しましたので紹介します。

1 「ブライダル産業フェア 2026」の概要

同フェアは、ブライダル産業に関わる企業が集まる国内最大級の展示会として開催され、27回目の今回は110社が出店しました。会場では、生花を使った会場装飾を提案するブースの他に、精巧な造花を使った装飾や、生花を加工した商品の展示がありました。

2 ブライダル花き利用の最前線

婚礼用の新たな花きの利用方法として、農薬を使用せずに栽培した胡蝶蘭の花弁部分を、披露宴の料理に添えて食べることの出来る食用胡蝶蘭（エディブルオーキッド）がありました。また、花き小売業者の展示ブースでは、新郎新婦のイメージや好みの色をウェブ上でカウンセリングし、好みに合った花やフロリスト、花材、装飾のスタイルを提案するWEBシステムを紹介していました。



食用胡蝶蘭のサンプル

造花を会場装飾として提案しているブースでは、展示されていた造花が非常に精巧に作られており、一目見ただけでは生花と見間違ふほどでした。担当者は、「造花のクオリティと種類は10年前と比べて格段に進化しており、新郎新婦が前撮りを行う際に使用する場合が多い。しかし、ブライダル産業では依然として生花を使いたい消費者が多く、8割ぐらいの消費者が結婚式に生花を使用している」と話していました。



造花の会場装飾

結婚式で使用した生花の加工を提案するブースでは、押し花やドライフラワー、キャンドルに加工された商品が展示されていました。会場装飾やウェディングブーケに生花を使用した後、そのまま廃棄するのはもったいない、思い出として残しておきたいと考える消費者は多く、思い出の品として生花を加工する需要があると感じました。



押し花に加工された
生花のブーケ

ブライダル産業における花きの利用は、従来の会場装飾や式場での使用に加え、披露宴の食事の添え物から思い出を形として残す押し花、キャンドル、ドライフラワー等の加工品まで、様々な形に広がっています。今後も、多様な形態の花きのブライダル産業への活用が期待されます。

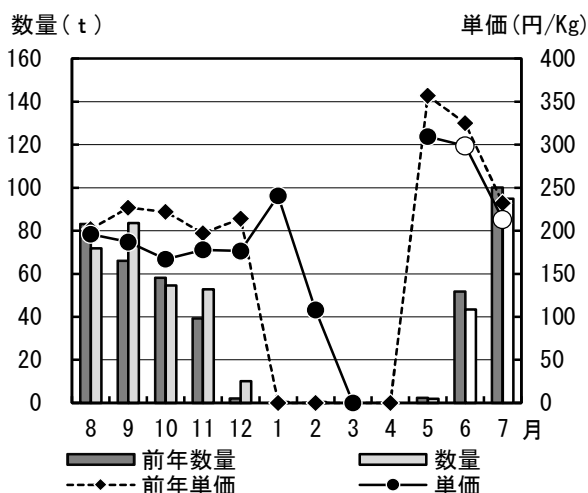
東京都中央卸売市場における7月の主要な愛知産青果物の動向

1 翌月の見通し

品目名とうがん

実績等	区分	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)	市場からの提言等
実績	2021年	529	126	静岡 32%	愛知産は、品質面では特に良いものから並以上まで産地により差がみられるが、全体的には問題がないレベルである。 12月まで切れ目なく販売するため、産地の生育状況や出荷計画など積極的な情報発信をお願いしたい。
	2022年	582	140	神奈川 27%	
	2023年	471	165	愛知 23%	
	2024年	414	158		
	2025年	434	188		
	5ヵ年平均	486	153		
	2026年見通し	440	170		

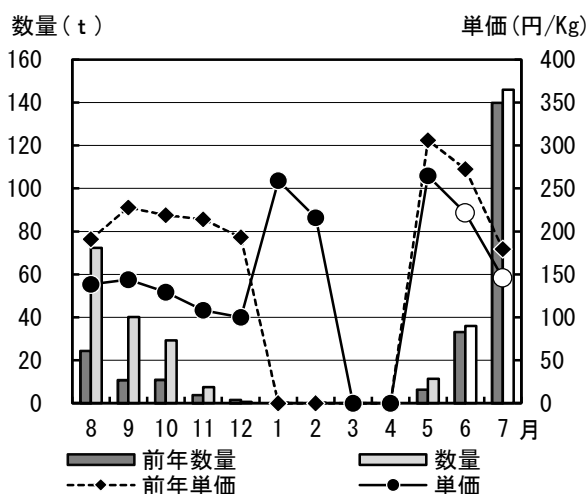
愛知産の動き



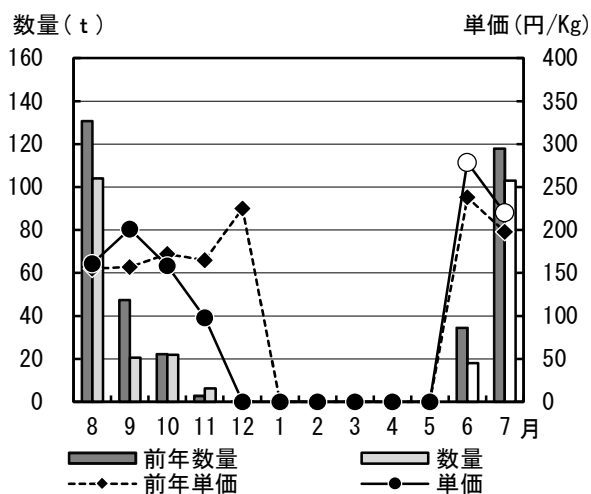
本県の作付面積は前年よりやや増加、競合産地の静岡や神奈川は前年並を見込む。各産地からの入荷は、静岡は5月中旬、本県は5月下旬、神奈川は6月上旬に始まっている。各産地とも生育は概ね順調であるが、一部地域では、低温や梅雨入り、台風の影響により、生育が遅れ、前年よりも数量が伸びていない。

7月は梅雨明け後の気温次第で、今後の生育への影響が懸念されるが、出荷量がまとまる時期であるため、全体としては前年並の入荷量を見込む。

競合産地の動き（静岡）



競合産地の動き（神奈川）



2 入荷量・価格の動き

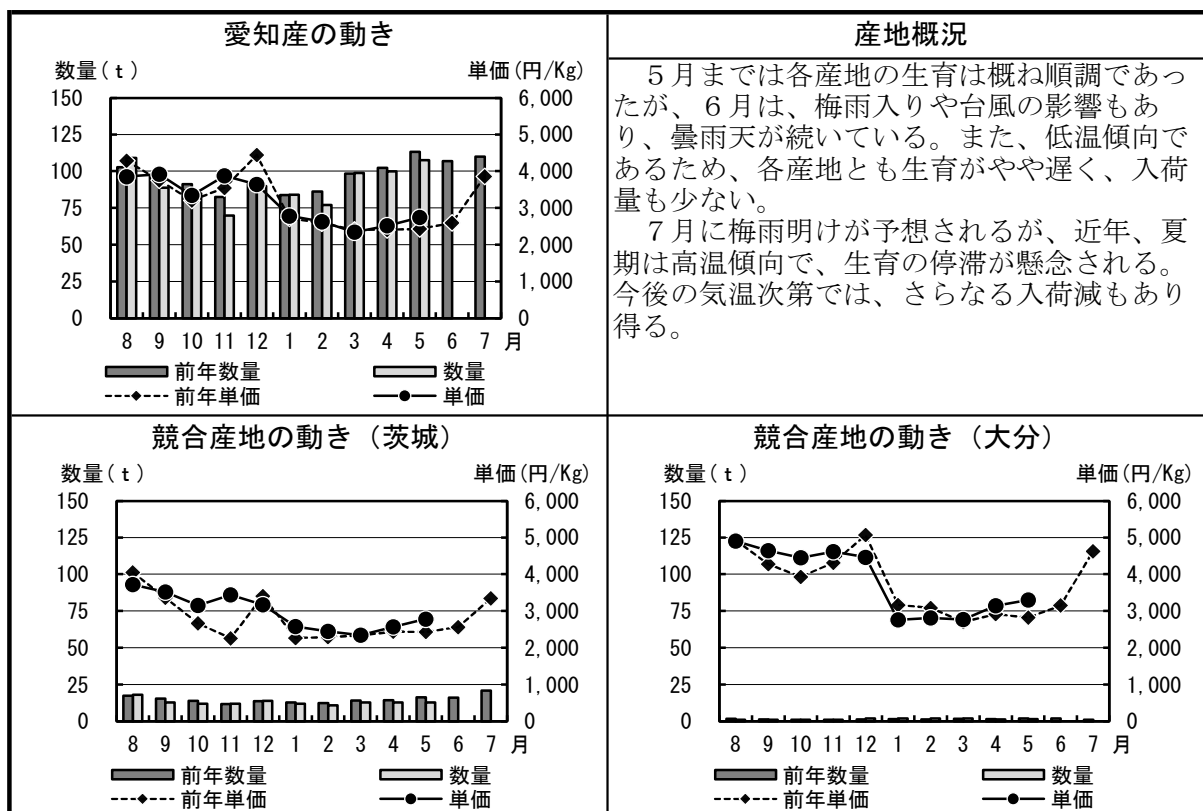
品目名おおば

前年上位3産地(%)

愛知 83%

茨城 16%

大分 1%



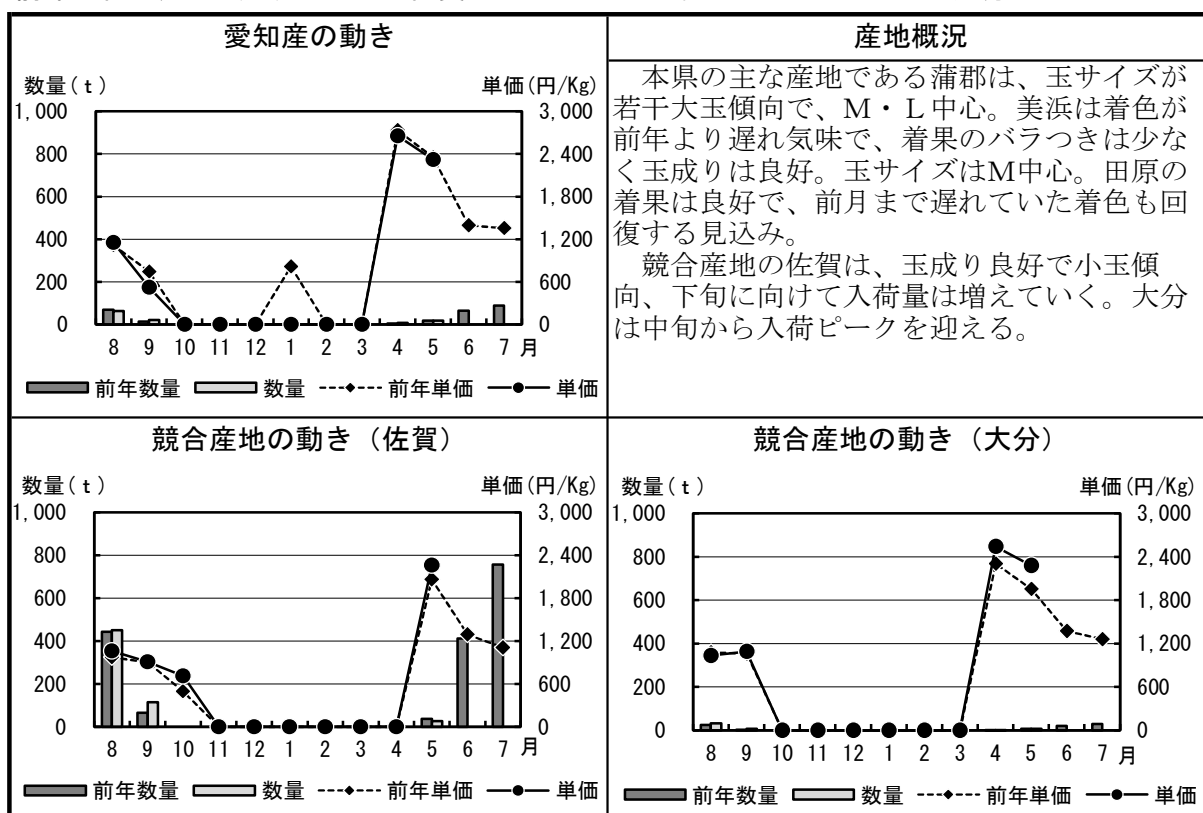
品目名ハウスみかん

前年上位3産地(%)

佐賀 83%

愛知 10%

大分 3%



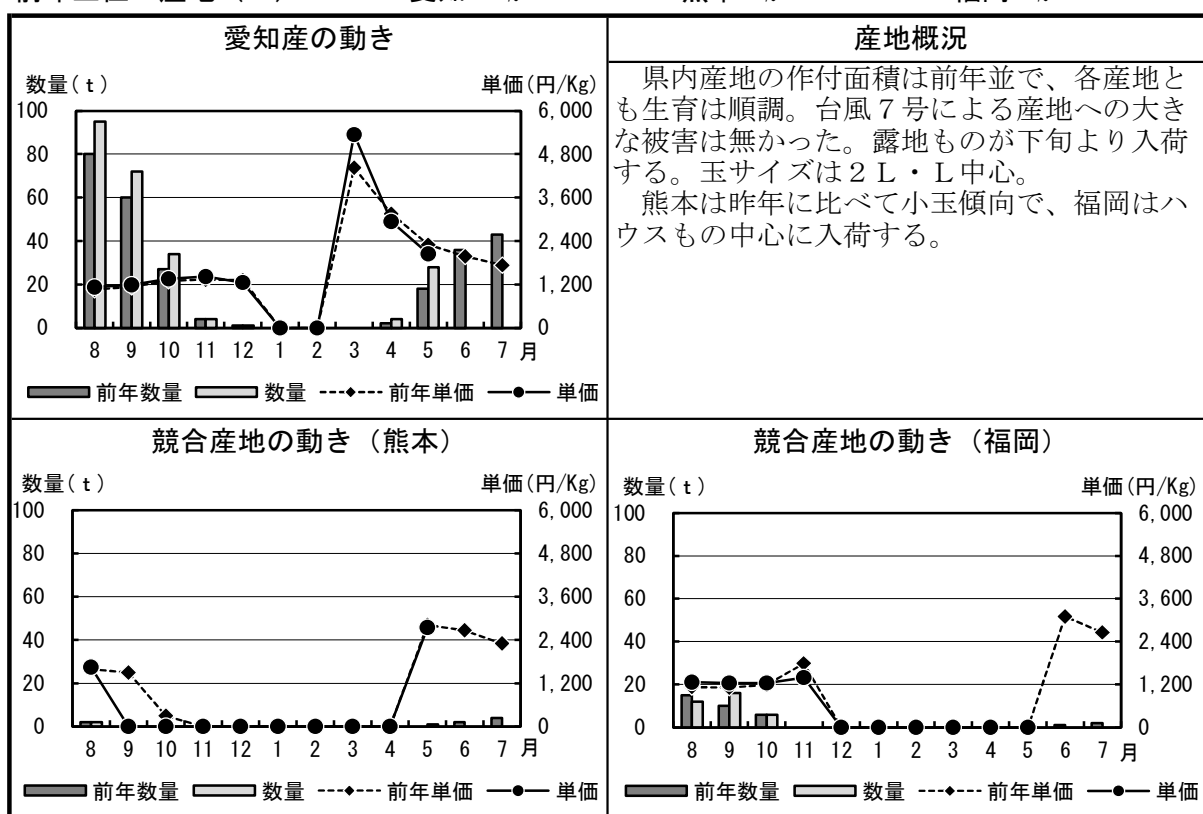
品目名いちじく

前年上位3産地(%)

愛知 80%

熊本 8%

福岡 4%



切花・鉢花の7月の見通し

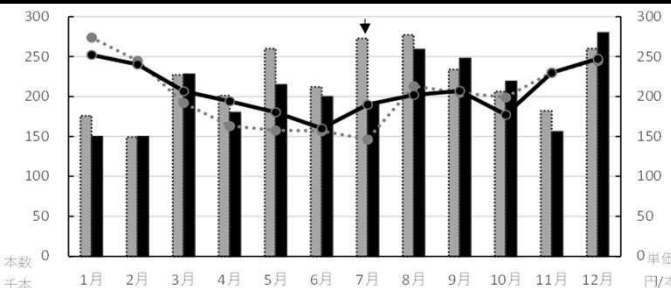
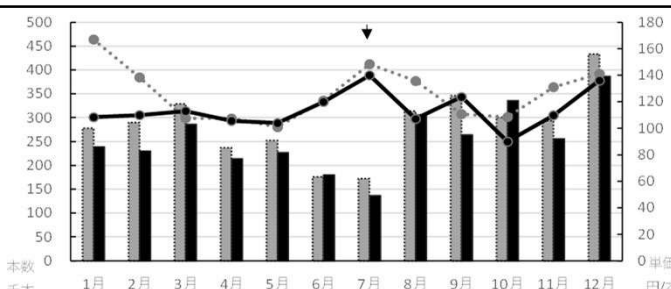
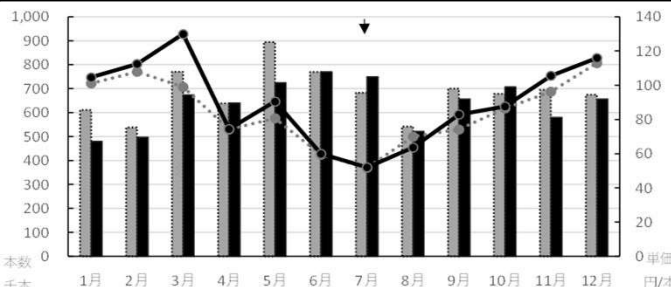
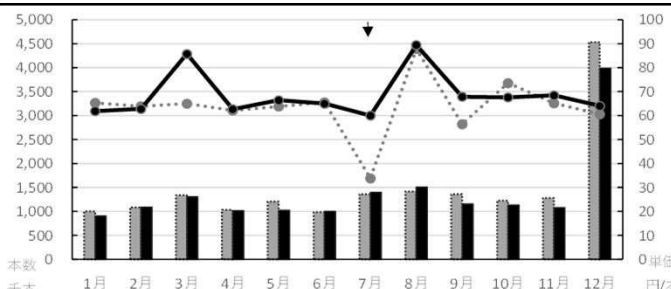
前年・数量 前年・単価
 当年・数量 当年・単価

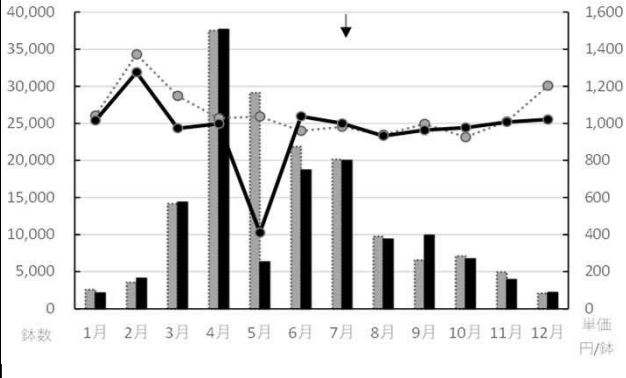
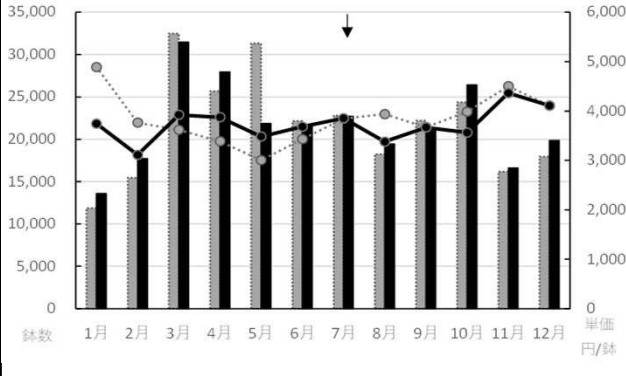
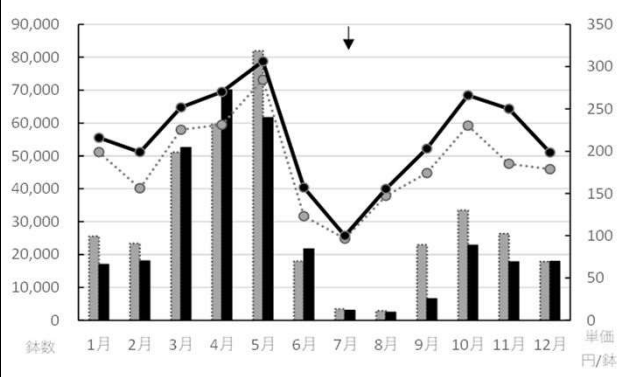
切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月現在）

単位：千本、円／本

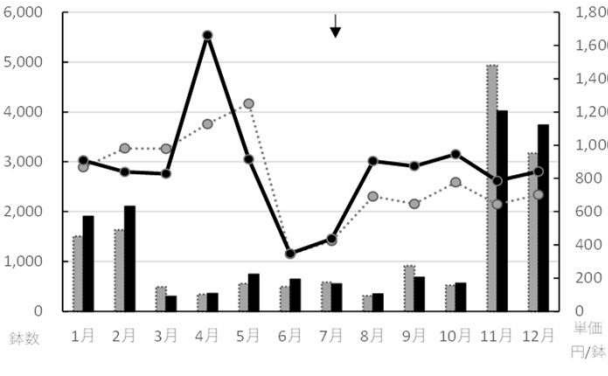
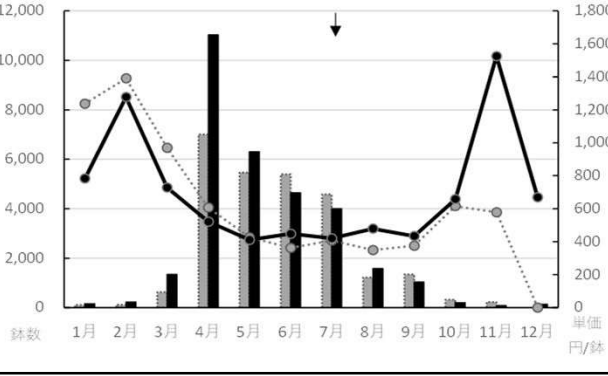
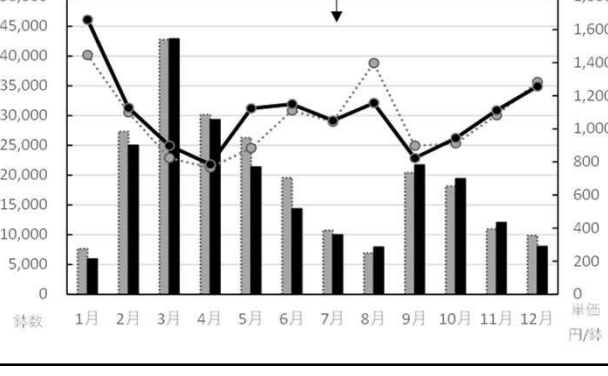
品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2021年	1,597	35	
		2022年	1,253	44	
		2023年	1,238	61	
		2024年	1,253	44	
		2025年	1,238	61	
		5カ年平均	1,316	49	
		2026年	1,200	50	
	概要	愛知、三重、長野から入荷予定。今期の12月の返しは6月いっぱい終了し、7月からは夏菊に切りかわる見込み。前半は新盆、後半は旧盆需要があるため、価格は安定する見込み。			
小 ぎ く	実績	2021年	1,467	24	
		2022年	1,017	41	
		2023年	1,309	38	
		2024年	1,017	41	
		2025年	1,309	38	
		5カ年平均	1,224	36	
		2026年	1,300	35	
	概要	愛知、長崎、長野から入荷予定で、全般10日ほど前進の見込み。7月前半は新盆、後半は旧盆需要があるため、販売は安定の見込み。高温には気を付けたい。			
カー ネー シ ョ ン	実績	2021年	976	40	
		2022年	971	34	
		2023年	1,000	36	
		2024年	1,133	50	
		2025年	1,051	47	
		5カ年平均	1,026	41	
		2026年	800	55	
	概要	年明けから中東情勢や為替等の影響により、特に南米産の輸入がしばらく減少している。7月は供給が増えるタイミングではあるが、例年より価格が安定する見込み。			
か す み そ う	実績	2021年	115	85	
		2022年	140	88	
		2023年	149	85	
		2024年	184	83	
		2025年	149	85	
		5カ年平均	147	85	
		2026年	160	90	
	概要	福島、長野から入荷予定。上旬は据え置き株のピークとなる見込み。今年は若干前進傾向ではあるが、安定した価格での販売を見込む。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	277	148	
		2022年	265	161	
		2023年	273	146	
		2024年	243	171	
		2025年	273	146	
	5ヵ年平均		266	155	
	2026年		190	190	
概要	新潟、北海道、埼玉、岐阜から入荷予定。近年八重系品種が人気だが、球根全般の価格が高騰しており、数量は減少の見込み。				
洋らん	実績	2021年	214	106	
		2022年	195	153	
		2023年	172	148	
		2024年	197	153	
		2025年	172	148	
	5ヵ年平均		190	142	
	2026年		137	140	
概要	愛知、静岡、鹿児島と輸入品が入荷予定。輸入品は、為替はもとより最近の中東情勢により、不安定な入荷となっている。特に需要期ではないが、価格は若干高めの見込み。胡蝶蘭は数年前に価格の高騰により葬儀の人気アイテムから外され、単価が伸び悩み、量を販売しづらくなった。				
ばら	実績	2021年	557	51	
		2022年	644	51	
		2023年	683	52	
		2024年	675	52	
		2025年	683	52	
	5ヵ年平均		648	52	
	2026年		750	52	
概要	愛知、岐阜、三重、長野から入荷予定。近年の暑さにより株疲れが出てきており、出荷本数が若干減少。販売価格は安定の見込み。				
枝もの	実績	2021年	1,366	64	
		2022年	1,482	71	
		2023年	1,359	75	
		2024年	1,428	72	
		2025年	1,359	34	
	5ヵ年平均		1,399	63	
	2026年		1,400	60	
概要	近年は高齢化等で山取の入荷が不安定な中、新しい取り組みとして七夕に向けた笹等のアイテムが出てきている。例年、この時期は入荷が若干減少するが、長野中心に草花が増える見込み。新盆や月末にはハウズキ、ハスなども出てくる見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
アンズリウム	実績	2021年	23,394	992	
		2022年	21,480	1,095	
		2023年	23,404	989	
		2024年	25,845	999	
		2025年	20,137	982	
	5カ年平均		22,852	1,011	
	2026年見通し		20,000	1,000	
概要	入荷量は前年並もしくはやや減少の見込み。 近年の猛暑の影響で夏場は発色が悪くなり出荷できるものが少なくなると予想される。 4～6号が出荷の中心で白系等での涼し気な色目の引き合いが強くなる見込み。				
ファレノプシス	実績	2021年	31,387	3,439	
		2022年	22,489	3,554	
		2023年	26,588	3,534	
		2024年	24,001	3,835	
		2025年	22,786	3,846	
	5カ年平均		25,450	3,627	
	2026年見通し		22,700	3,855	
概要	入荷量は大輪、ミディ系ともに前年並か。 販売量の見込みが伸びる時期ではなく、生産量を調整する時期の為に多くは無い見込み。				
バラ及びミニバラ	実績	2021年	13,715	103	
		2022年	5,142	72	
		2023年	9,650	93	
		2024年	7,921	104	
		2025年	3,389	97	
	5カ年平均		7,963	96	
	2026年見通し		3,000	100	
概要	入荷量は減少か。 小鉢中心の出荷だが、暑さや経費面から生産量は減少傾向。 近年の酷暑の影響も大きく、傷み懸念から買い控えも考えられ、生産数が減っても価格は苦戦する見込み。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2021年	1,113	412	
		2022年	711	414	
		2023年	711	561	
		2024年	483	529	
		2025年	583	423	
	5ヵ年平均		720	459	
	2026年見通し		550	436	
概要	入荷量は前年よりさらに減少か。 生産コスト、資材の高騰に伴い、生産原価と販売単価が見合わない状況。 洋蘭のギフト需要も年々減少している状況で、相場も厳しいことが予想される。 市場出荷される量は、かなり少ないとの見込み。				
スパティイ	実績	2021年	7,104	314	
		2022年	2,942	471	
		2023年	4,826	357	
		2024年	7,675	243	
		2025年	4,578	407	
	5ヵ年平均		5,425	334	
	2026年見通し		4,000	420	
概要	入荷量は減少か。 生産環境課経費面の影響もあり、3号～3.5号など苗生産が減り、4号や6号規格が出荷の中心になってきている。 それに伴い、平均価格は上昇する見込み。				
ドラセナ類	実績	2021年	19,934	1,127	
		2022年	16,485	1,214	
		2023年	17,273	977	
		2024年	14,659	1,072	
		2025年	10,753	1,043	
	5ヵ年平均		15,821	1,091	
	2026年見通し		10,000	1,050	
概要	入荷量は前年より減少か。 近年の輸入原木の仕入れ価格の上昇、及び輸入原木の不安定な入荷で出荷は減少の見込み。 サイズに関しては、7～8号サイズが入荷の中心での見込み。				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていくという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポートNo.635
2026年7月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434